3.比叡山延暦寺大霊園にみる永代供養墓

鈴木岩弓（東北大学）

１．はじめに　―問題の所在―

NHK の『おはようジャーナル』と言う番組で「子ども 1.7 人時代　家族はいま」という番組を見たのは、今を去ること四半世紀以上も前の 1989 年のこと。当時の日本では人口減少が問題とされ始めており、この番組では、一人の女性が一生の間に産む子どもの平均数である「合計特殊出生率」が 1.7 人を割ろうとしていることに絡めて、家族が大きく変化していこうとしている当時の日本の状況に切り口が当てられていた。人口学の方では、次世代の人口が減少しないためには、合計特殊出生率は 2.07 以上を確保することが必要と言われている。そうした基準からすれば、「1.7」の日本社会においてはこれまであたりまえに行ってきた家族関係からはとても対応できないような状況が、ヒタヒタと忍び寄ってきていることが明らかであった。にもかかわらず、こうしたことに対して国の方から大きな施策提示がなかったことに、不安を強く覚えたことをよく覚えている。

番組の中で取りあげられた問題の一つに、今で言う「永代供養墓」の選択が取りあげられていた。一人娘を嫁に出し、定年後に二人暮らしをしている夫婦が、従来型のイエの系譜に沿った形の伝統的な墓とは別のタイプの墓を入手した事例が紹介されていたのである。この時取りあげられた「永代供養墓」こそ、本稿で扱っていく比叡山延暦寺大霊園における「久遠墓」である。当時撮っておいた VTR を見直してみると、久遠墓宣伝のためのビラの上段には、大きく「永久に、無縁墓にはいたしません」とあり、その一段下にポイントを落とし「1200 年の法灯を護る比叡山延暦寺が貴方自身の子孫となって永遠にご供養いたします」とある。舞台廻しで登場されたご夫婦の場合もそうであるが、ビラにある表記の前提には、従来、先祖の眠る墓を護ることは子孫の役目であるとするイエの系譜に基づく死者に対する“扱い”があったのであるが、その継承が困難となってきた状況を打破するための一つの解決方法として、寺院の責任で先祖を祀る久遠墓が紹介されていたのである。

番組に登場された夫婦は、新聞をみて久遠墓の入手を決めたという神奈川県秦野市に住む 63 歳の夫と 60 歳の妻であり、久遠墓選択に至った決断の経緯を話すインタビューと、二人がいずれ入ることになる久遠墓を実際に訪問する場面とで構成されていた。二人がこのような永代供養墓を入手するに至った背景は、夫による以下のような発言を通じて明らかにされていた。

「子孫がお墓参りをしてくれるということを、期待していないということなんですよね。」

「おそらく世間には二人暮らしのお年寄りも沢山いらっしゃいますし、子孫がいるったって、 一人いるか二人いるかと言った状態ですから、その子どもにお墓参りを期待

するという言うこともどうかと思いますよね。むしろさっぱり、もうそういうことは考えないということの方が、子どもに対して負担をかけないと言うことになるような感じがしますけれどもね。」

「子どもは昔、親孝行なんて言って、われわれなんかはそう言われて育ってきたんですけど。今はもう逆にね、年寄りはどうして子どもに孝行をするかという時代に移ってきたみたいな感じでね……。」

この番組を見て初めて知った「比叡山延暦寺大霊園」の久遠墓が、現代日本において一つのトレンドとなっている「永代供養墓」の普及に先鞭をつけた最先端の試みであったことを知ったのは、更にずっと後のことである。昨年 2016 年には 40 周年という節目の年を迎えた「比叡山延暦寺大霊園」であるが、本稿においては、この地における永代供養墓の現状について改めて鳥瞰してみることで、わが国における永代供養墓の現状の一端をまとめてみることにしたい。

２．比叡山延暦寺大霊園の歴史

8 世紀末に伝教大師最澄によって開かれたと言われる比叡山延暦寺は、1200 年の歴史をもつ天台宗総本山の古刹として知られている。この寺が著名であるのは、単に長い歴史を持つことのみならず、「日本仏教の母山」の名で呼ばれるように、法然上人（浄土宗開祖）・親鸞聖人（浄土真宗開祖）・良忍上人（融通念仏宗開祖）・一遍上人（時宗開祖）・真盛上人（天台真盛宗開祖）・栄西禅師（臨済宗開祖）・道元禅師（曹洞宗開祖）・日蓮聖人（日蓮宗開祖）など、わが国における主な仏教教派の創始者が、若き日にこの寺で仏道を学んだ経験を持つことにある。そうした歴史をもつことから、延暦寺は「学問寺」「修行寺」とも呼ばれ、さらに 1994 年にはユネスコ世界文化遺産に登録されたことに示されるように、「観光寺」としての位置もより明確になってきた。

わが国の仏教寺院の多くは、近世以来、檀家と呼ばれる決められたイエとの間に寺檀関係を結ぶことでその経営基盤を成り立たせてきた。ところが比叡山延暦寺は、その歴史の中で檀家をもったことはなく、多くの他の仏教寺院が寺檀関係を取り結ぶことで行っている＜死の儀礼＞は、原則的に行ってこなかった。山内にある墓地と言えば、修行僧のものの他、歌人・文人など比叡山と縁の深い人の供養塔があるのみであった。そうした延暦寺において、滅罪回向の道場として、全国に広がる信徒各家の御霊を祀り、日々不退に念仏回向する道場として「法華総持院阿弥陀堂」が建立されたのは 1937 年、比叡山開創 1150 年大法要を記念してのことであった。この阿弥陀堂が建立された場所は東塔の内でも標高が一番高いところで、本尊の丈六の阿弥陀如来に対して、全国信徒各家の先祖回向や故人の回向法要そして納骨等の法要が日々受け付けられている他、春期彼岸会（3 月 １8～24 日）盂蘭盆会（8 月 13～16 日）秋期彼岸会（9 月 20～26 日）が開催されている。

こうして比叡山の山中に一般信徒のための＜死の儀礼＞の場が導入されたわけであるが、さらに伝教大師千百五十御遠忌を迎えようとする 1967 年になると、大遠忌記念事業の一

環として横川地域内に横川中堂の再建をすると同時に、比叡山公園墓地計画が当時の内局から出された。かかる動向の背後には、その当時比叡山ならびに奥比叡の二つのドライブウェイの開通によって叡山へのアクセスが便利になったこと、そしてさらに浄土教発祥の地でもある比叡山の中に、回向の機能を明確にしていくことの“時代的要請”を感じるようになったことが挙げられていた。公園墓地は 1970 年に「横川霊園」の名前で開園し、それなりの需要が見られたのであるが、そうはいっても、比叡の山上に一般の人々の墓があることに対して疑義を唱える住職たちは依然多かった。

そうした中で、全国に見られる多くの仏教寺院とは異なり、檀家ももたず、また一般の信徒に対する＜死の儀礼＞の受け入れを 20 世紀に入ってから開始し出した延暦寺において、伝統ある比叡山延暦寺の経営の元に霊園を作ろうという計画が起こったのは、1972 年 11 月のことである。その契機は、当時の中山玄雄執行を中心とした内局に対して、大阪の繊維会社で構成される船場興産株式会社が比良山麓に一大霊園を開発する計画を提案してきたことにある。このことの可否をめぐり賛否両論が出された延暦寺では、一山会議を開いて検討を重ねた結果、最終的に開発承認の道を選ぶことになり、現在みられる比叡山延暦寺大霊園が誕生することとなった。その経緯をまとめてみるなら、＜表１＞のようになる。

ここから明らかなように、この霊園は、長い歴史をもつ日本仏教のセンターとも言うべき延暦寺の影響下にありながら、寺の長い歴史の中では無縁であった一般信徒の回向の領域に対する受け口を新たに作り、その具体的方法も、継続的に時代を見据えた形にブラッシュアップして世に問うていることがわかってくる。

＜表１＞ 比叡山延暦寺大霊園のあゆみ

年	月	日	事　項
1972	11		船場興産株式会社、比叡山延暦寺に対して比良山麓に約 21 万㎡の「比叡山国際霊園」（仮称）開発計画を提案。
1973	2	7	「比叡山国際霊園」（仮称）建設にあたり、延暦寺と船場興産との間で基本的契約書と細則を締結。
1974	10	16	滋賀県知事より造成許可を取得。
	12	9	造成にあたり、地鎮祭を奉修。
1975	10	13	第一期工事起工式奉修。
1976	11	6	第一期工事で、解脱地区・光明地区・蓮華地区が完成。
1977	4	1	「比叡山延暦寺大霊園」開園。墓地の完成により、使用権の引き渡し開始。
	11		第二期造成工事で、精進地区・禅定地区・功徳地区・妙法地区、及び他の全地区が完成する。
1978	11		第一次管理棟が完成。
1979	10		篤志家からお堂と鐘楼の寄進申し出があった。検討の後、霊園本堂として移築建立することになる。
1980	9	26	本堂及び鐘楼の移築工事が完成し、落慶法要が催された。

1985	7	1	墓地の祭祀継承者がいない方のための永代供養墓地「久遠墓」三種を設定し、販売開始。
			販売開始直後より、「久遠墓」はTV,新聞などで取りあげられ、時代のニーズに合った墓地として好評を得る。
1986	4		指定石材店各社による宣伝広告と積極的な販売活動の開始により、見学会への来園者数が大幅増加。
	11		第二次管理棟（現管理棟）新築工事が決定し、地鎮祭を執行。
1988	11		本堂前に、六地蔵尊建立することを承認。
1989	3	19	六地蔵尊前にて開眼法要が行われ、寄進者など約 300 名参列。
	9		日本最初の百三十三観音霊場の石仏ご本尊建立計画。
1994	12		ユネスコ世界遺産委員会から、比叡山延暦寺が世界文化遺産に登録される。
2001	4		防災・防犯面と不法投棄増加のために、霊園入り口門扉の門限を設置。
2003	7		篤志家より礼拝堂（現回向堂）の建設寄進。
	9		比叡山延暦寺大霊園使用の篤志家から「ふれあい広場」として大日如来や七福神、灯籠などの奉納。
2004	3		新区画バリアフリー墓地、販売開始。
2005	4		管理棟増設工事に着工。
			諸堂の整備事業に着種。永代供養位牌壇増設、本堂内を畳張りから板張りに変更する改修を行った。
2006	7		ふれあい広場後方に、十三佛の石仏奉納を呼びかけたところ、順次申し込みあり。
2007	6		霊園内の上水道水道管改修工事に着手。水管を鉄製から樹脂加工水管に交換した。
	10		篤志家の寄進により、涅槃地区に無縁墓石安置所として三界萬霊宝篋印塔を建立。
2013	8		管理棟横の大駐車場で舗装工事。
2016	3	21	本堂にて第 257 世天台座主の森川宏映猊下を大導師とした春季彼岸総回向法要並びに霊園開園四十周年記念法要

３．比叡山延暦寺大霊園の構成

1977 年 4 月 1 日に開園した比叡山延暦寺大霊園は、滋賀県大津市伊香立上竜奉町 703 に位置する、総面積 210,000 ㎡の県下一広い墓園である。１霊地 90×90cm を基本単位として区画が作られており、65,000 に及ぶ全ての霊地は南向きである。主要施設としては本堂、回向堂、庫裏、管理棟（無料休憩所・事務所）、園内保持管理棟があり、上下水道も完備している。本堂では年忌法要をはじめとした数多くの法要が執り行われるが、その一角には「位牌段」が設えられており、久遠墓で祀られる死者の一部に対する供養が行われている。

墓域は 9 地区に分けられ、それぞれ仏教語の地区名が付けられている。霊園の歴史の中でも早い 1976 年に、第一期造成工事として作られたのが解脱地区・光明地区・蓮華地区で、翌年の 1977 年には第二期造成工事として精進地区・禅定地区・功徳地区・妙法地区、そして般若地区と涅槃地区が作られている。

この霊園の特徴は「教宗派は問わない」ということで、天台宗の僧侶が三名常駐してい

るにもかかわらず、仏教各派はもちろん、神道やキリスト教の信者、さらには無宗教の人の使用まで許されている。

延暦寺大霊園内に設けられている墓地は、現代人のライフスタイルを反映した多彩な選択が可能な墓の設置を心がけて作られており、大別して三種に分けることができる。

＜図＞比叡山延暦寺大霊園の概要（霊園で配布のビラ）

(1)「一般墓地」

伝統的でありながら先進的なグローバル設計がなされており、パンフレットには「一人ひとりの思いをかたちにできるように、さまざまな墓地をご用意しています」とある。

90×90cm を 1 霊地として 2 霊地・3 霊地・4 霊地・横 6 霊地・縦 6 霊地・9 霊地・縦 12 霊地の七種の区画が用意されている。

霊園では、「一般墓地」に作られる墓をさらに以下の 4 種に分けている。このうち①と②のタイプはその墓に関与する人々の集団で分けていると考えられるが､③は墓域の形状、④は既成の墓石を選択するタイプのものである。その意味で③と④は、墓に関与する人々の集団から言うと特に①と重なる可能性が大きいのであるが、①と比べて③と④の墓については、区画や墓石を自由に選択することができないところが一番大きな相違点となっている。

①「一般墓」

これが一番ポピュラーなタイプで数も多く、一般墓地内の好きな区画を 2 霊地から使うことができ。いわゆる、「家族墓」を想定しているものと思われる（明記されてはいないが)。その意味で、＜血縁中心墓＞と言うこともできるかもしれない。ここで使用する墓石は、伝統的な和型のみならず、洋型、さらには先進的なデザインを取り入れた独創的なものまで、要望に添った選択が可能となる。土地を求めてすぐに墓石建立する必要は無いが、土地を入手した後一年以内に外柵施工することが義務づけられている。

②「法人・企業墓」

法人専用の墓石・慰霊碑の建立がなされ、法人が主体となって行う供養や慰霊をする際に対象とされる墓で、広い面積をもつものが多い。さまざまな企業によって作られた＜社縁墓＞であるが、現在までの所 13 ある法人霊地に 70 ほどの団体の墓が建てられている。

③「バリアフリー墓」

これは墓そのものの特徴ではなく、墓地の構造上からなされた区分けである。通常の参道幅が 80cm であるところを 120cm に拡張し、車イスでの参拝の便が図られている墓の区画である。時代の流れを反映してか、2004 年から提供されだした新しいタイプの墓である。

④「墓地・墓石セット墓」

墓地と墓石が既にセットとなって販売されている廉価タイプで、この墓の建てられる区画は限定されている。２霊地セット（85 万円～）と３霊地セット（143 万円～）がある。

⑵永代供養久遠墓地

この種の墓地については次章で詳述することになる。

⑶小地蔵尊（水子）

いわゆる水子供養のための地蔵尊。墓園中央部の禅定地区にあり、水子地蔵本尊の周囲に、供養者が建立した小地蔵尊が並べられている。毎年 8 月 24 日には、地蔵盆の法要が行われる。

＜写真１＞小地蔵尊近くから本堂を望む　　＜写真２＞小地蔵尊

４．永代供養久遠墓地

久遠墓地は「子孫・継承者のいない方などの墓地」ということで、パンフレットによるなら以下のような説明がある。

> 少子化、核家族化、独身者の増加など、家族制度の変貌によりお墓を受け継ぐ子孫や継承者のない方が近年急増しています。このような現代のニーズに対応すべく、新しい墓地の形態として考案されたのが久遠墓地です。いずれも、お施主個人の墓地に個別の石碑を建立し、ご納骨する形式で、比叡山延暦寺が貴方自身に代わって、永代にわたり維持管理・清掃・ご供養いたします。

つまり従来までの、日本におけるイエ制度に基づく子孫が先祖を祀るというシステムが立ちゆかなくなってきたことを補う打開策として、延暦寺が死者の面倒を見るという永代供養の墓を設けたのである。1985 年のことであるので、この大霊園が開園して 8 年後、今から 32 年前のことである。近年の日本においては全国至る所で「永代供養墓」の試みが見られるが、その先鞭をつけたのがこの比叡山延暦寺大霊園と言われており、上記の文章からはそうした新たな展開を目指す、簡潔ではあるがポイントを絞った意気込みが込められている。社会の根幹を揺るがす、イエ制度が崩れると言う変動の中、寺院の方でその解決策を創出する試みを行ってきた背景には、「安心こそ宗教の本質」という考え方があったものという。

久遠墓地には以下に述べる 8 タイプの久遠墓があるが、それらの入手にあたって支払う料金の中には、基本的に以下のものが含まれている。それは「永代供養料・過去帳記載料・墓地永代使用料・石碑料・石碑彫刻料・永代護持管理料・永代掃除料・開眼納骨法要費用（回向料・祭壇料・供物料・供花料）・消費税」である。また久遠墓に対しては永代供養がなされることになるが、それはまず、霊園総本堂に奉安してある霊名記載の過去帳を命日に供養することであり、また、春秋の彼岸と盂蘭盆、さらに毎月 10 日（3・8・9 月は別

日）に総回向（供養）法要をすることで実施される。

以下、久遠墓のタイプについて、霊園で配布しているパンフレット及び霊園の公式ウエブサイトの記述を元にまとめることにしよう。

(1)久遠個人墓

1 霊位用。独身者、子孫等継承者のない方、海外移住者、亡くなられた方の埋葬先のない方、郷里の遠い方、その他寺院・公営墓地での継承者不在で墓地を求められない方などのためにご用意しております。

(2)久遠夫婦墓

2 霊位用。子供がいない、子孫が海外や遠方に在住、嫁入りした等の理由で、祭祀が難しい夫婦、兄弟、又は親子のみで墓地継承者が途絶える方、又は懸念のある方などのためにご用意しております。

(3)久遠吉祥墓

2 霊位用。石碑が和型・洋型の選択ができます。お施主様がご夫婦で子孫継承者のない方、子孫が嫁がれた方、海外・遠方などの理由や兄弟又は親と子供のみなどで祭祀継承が途絶えたり又その懸念がある方などにご提供しています。

(4)久遠慈眼墓

一般石碑型の墓地で、施主が先祖を含め継承してきた墓地継承者が将来途絶える方、又は懸念のある方、遠方からの移転など様々な理由がありますが、本人を含め最高 4 霊位までの埋葬が可能です。霊位の追加は 2 霊位までできますが、1 霊位追加に伴う費用は永代供養料等諸費用一式 265,000 円必要となります。総本堂に位牌を奉安し、命日には回向します。完売のため、現在は募集終了しております。

(5)久遠慈眼観音墓

石碑が観音様の型の墓石で、内容的には慈眼墓と同様のお墓となっております。

(6)久遠瑞雲墓

一般石碑型です。お施主様が先祖を含め継承してきた墓地が将来途絶える方、又は懸念のある方、遠方からの移転など様々な理由がありますが、本人を含め最高 6 霊位まで埋葬が可能です。

(7)久遠安養墓

一般石碑型墓地で 2 霊位対応。3 霊地の墓所に門中式巻石、青御影石 8 寸碑の墓石を建立し、永代供養・永代護持管理・清掃料と位牌奉安料を加えた永代供養墓地です。

(8)久遠福聚墓

「功徳ろ地区」に限定し場所や広さ、石碑等が選べる最高位クラスの墓地です。回向法要は、毎月の本堂回向と春秋彼岸法要・盂蘭盆には霊地総本堂において永代に亘り供養いたします。墓石には基本形であります「和型」・「洋型」をご用意しております。

＜表２＞ 比叡山延暦寺大霊園における久遠墓の種類

墓の種別		供養人数	価格	開眼納骨法要費用	開眼法要費用	納骨法要費用	命日回向	墓前回忌法要	位牌奉安料	墓地の面積	場所	備考
久遠個人墓	久遠個人墓（K）	1霊位	59.8万円	1回			○			35×115cm	妙法は地区	
	久遠個人墓（B）	1霊位	78万円	1回			○			45×110cm	禅定い地区	
久遠夫婦墓	久遠夫婦墓（C・L）	2霊位	108万円	2回			○			70×120cm	禅定い地区	
久遠吉祥墓	久遠吉祥墓（J）	2霊位	155万円	2回			○			75×130cm	妙法は地区	石碑は和型・洋型二種より選択可
久遠慈眼墓	久遠慈眼墓	2～4霊位	完売分譲終了	2回			○		1基	90×180cm	光明へ地区	一般石碑型
久遠慈眼観音墓	久遠慈眼観音墓（D）	2霊位	210万円	2回			○		1基	90×180cm	光明へ地区	観音型石碑
久遠瑞雲墓	久遠瑞雲墓（I）	2霊位	255万円	2回			○		1基	90×180cm	妙法は地区	一般石碑型・洋型選択可
久遠安養墓	久遠安養墓（G）	2霊位～	429万円		1回	2回	○	○	1基	140×170cm	光明へ地区	一般石碑型・洋型選択可
久遠福聚墓	久遠福聚墓（H）A	2霊位～	525万円		1回	2回	○	○	1基	180×180cm	功徳ろ地区	青御影石　和型8寸or洋型70型
	久遠福聚墓（H）B	2霊位～	635万円									黒御影石　和型8寸or洋型70型
	久遠福聚墓（H）C	2霊位～	665万円									国産銘石　和型8寸or洋型70型
	久遠福聚墓（H）A	2霊位～	660万円							180×270cm		青御影石　和型9寸or洋型75型
	久遠福聚墓（H）B	2霊位～	780万円									黒御影石　和型9寸or洋型75型
	久遠福聚墓（H）C	2霊位～	860万円									国産銘石　和型9寸or洋型75型
備考								50回忌まで	総本堂に位牌奉安			

（2016年霊園配布のパンフレット及び、霊園の公式ウエブサイト記載から、鈴木が作表）

＜写真３＞　久遠個人墓

＜写真４＞久遠夫婦墓

以上の記述をまとめて比較したのが＜表２＞であるが、久遠墓が８種に分けられる理由は、「墓域の面積」、「供養人数」、「墓石の形態・材質・大きさ」、「総本堂への位牌奉安・墓前回忌法要の有無」などにおかれている。いわば、質と量の違いによってランクわけされているものと言えよう。

比叡山延暦寺大霊園の側で想定している久遠墓を選択する人物像はある程度共通しており、一言で言えば墓の＜継承者不在＞におかれている。その具体的状況については、最初期に作られた(1)久遠個人墓と(2)久遠夫婦墓に書かれた説明文の内容から以下の三点にまとめることができる。

①子供がいない（結婚の有無に拘わらず）

②子供はいるが墓に関われない（海外居住、遠方に居住、嫁に出る）

③子供以外にも継承者がいない

近年までのわが国における墓制の中心を占めてきた、イエの先祖を子孫が祀ると言うシステムが、子孫もしくは子孫に代わる者の不在を理由に維持できなくなっているというのである。

とはいえ当霊園においては、永代供養墓としての久遠墓の選択肢がさらに 8 種も設けられていることは注目すべきである。その詳細を見ると、とりわけ価格と供養人数の点などから、廉価なものから高価なものまで 10 倍以上の価格差が設けられているのである。墓を作るにあたっての相場が 200～300 万円と言われる昨今の“常識”からするなら、この霊園の上限はかなりな高額の設定といえよう。とりわけ「久遠福聚墓」の価格設定は、永代供養墓であるという点を差し引いても飛び抜けて高額なものと思われる。こうした選択の背後には、継承者としての子孫がいない場合のみならず、継承者としての子孫が入るにも拘わらず、そうした子孫たちに預けはしないという、お金に余裕のある親世代の意思を反映した選択が作用する場合も想定できよう。すなわち、＜継承者不在＞という事態は利用者の

側に多様な状況が想定できるということなのである。そのため、こうしたニーズに対してきめ細かく対応して受け口を提示していこうという霊園側の意向が反映された結果、永代供養墓としての久遠墓の価格帯の幅が大きく設定されているものと考えることができる。

５．おわりに

霊園開設から 40 年、永代供養墓としての久遠墓の提供が始まって 32 年の比叡山延暦寺大霊園においては、久遠墓の選択肢がさまざまに準備され、時間と共に展開していることが明らかになった。そうした中で、他の多くの永代供養墓が時間経過と共に集合墓もしくは合葬墓へと個人墓を移す形で運営されているのに対し、当地の久遠墓は祭祀継承者がいなくなった後も1200年の伝統をもつ比叡山延暦寺によって引き続いて未来永劫個別の墓のまま祭祀されていくことが保証されている点は特筆すべきである。個別の墓が永遠に保証されるといった形の永代供養墓運営は、「寺院消滅」が指摘される現代ではなかなか真似のできない難しいことかもしれない。しかし、そうした保証をもちながら、時代の流れを見据えた永代供養墓を検討してきたこの間の比叡山延暦寺大霊園の歴史は興味深く、今後の展開も気になるところである。